

第2回 価値デザイン経営WG

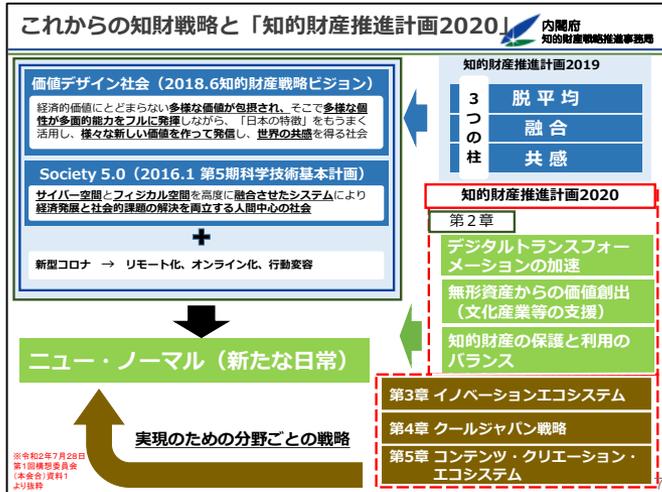
事務局説明資料

～価値デザイン経営の普及戦略の策定に向けて～

2021年1月18日

内閣府 知的財産戦略推進事務局

議事1(事務局より) 「知的財産推進計画2020における 価値デザイン経営の位置づけ」



I. インノベーションエコシステムにおける戦略的な知財活用② ～知財創造教育の推進/産学連携の推進/価値デザイン経営の推進～

内閣府 知的財産戦略推進事務局
※令和2年7月28日第1回審議委員会(本委員会)

知的財産推進計画2020
経営をデザインする考え方を普及するための
基本指針(価値デザイン経営の普及戦略)※を
年度内に決定 ※本日議論

議事(2)

(検討体制・スケジュール)
有識者委員会において各論点を検討して、3月末にとりまとめる予定。

(価値デザイン経営の推進)
(知的財産推進計画2020における施策)
経営デザインシートの活用を広げ、普及の担い手の組織化を推進するとともに、民間における普及のための取組を促進するため、経営をデザインする考え方を普及するための基本指針を2020年度中に整備し公表する。

(検討すべき論点と方向性)
① 基本指針を策定し、基本指針に沿った経営をデザインする考え方の普及状況をモニタリングする司令塔を設置。
② 民間による実践(普及のハブとなる法人)を後押しするとともに、官民の取組を推進(官民が集うプラットフォームの設置)

(検討体制・スケジュール)
上記司令塔として構想委員会の下にCWGを設置。PDCAを主な目的として、年間で2回程度(計4回)開催予定。

9

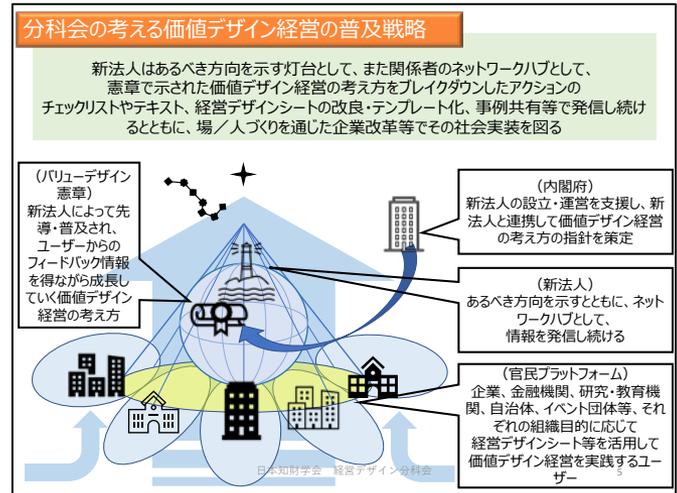
議事2(鮫島委員、近藤委員より) 「価値デザイン経営の普及に向けた 最新動向」

日本知財学会 経営デザイン分科会とは
設立の経緯(旧TFにおいて議論)

この分科会は、内閣府では主体的に価値デザイン経営の考え方の普及政策を継続的に遂行することは困難であることを理由に、普及のための法人設立を前提に作られた組織であり、旧TF委員や内閣府も参画し活動を行ってきた。

【設立の経緯】
2019年4月：旧TF委員会にて、経営デザインシートの普及・定着の担い手となる組織体はどのようなものが適切であるかについて検討。
2019年7月：旧TF委員会の議論を受け、旧TF委員及び内閣府で協議を行い、経営をデザインするという考え方や経営デザインシートを普及する活動を行うための組織化、また、その検討を行う組織として、日本知財学会内に分科会を新設することを決定。
内閣府の依頼を受け、日本知財学会(渡部俊也会長)に経営デザイン分科会の発足を申請。発起人は、鮫島正洋(担当理事)、杉光一成(理事)、近藤泰祐(代表幹事)に加え、内閣府知財事務局員1名(代表幹事)の4名。
2019年8月：理事会で承認を受け、活動を開始。

日本知財学会 経営デザイン分科会 2



目指すべき社会像

価値デザイン社会（2018.6知的財産戦略ビジョン）

経済的価値にとどまらない**多様な価値が包摂され**、そこで**多様な個性が多面的能力をフルに発揮**しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、**様々な新しい価値を作って発信**し、**世界の共感**を得る社会

知的財産推進計画2019

3
つ
の
柱

脱平均
融合
共感

各組織、各個人が価値デザイン経営を実践し、多様な価値創造メカニズムが生まれる

価値デザイン経営が普及し、その実践が促される
エコシステムの構築を目指す

各組織、各個人（特に中小企業、スタートアップ企業）へ
価値デザイン経営が普及し、その実践が促される

普及戦略に従い、各関係者が取るべきアクションアイテムを実行

「(仮称)価値デザイン経営の普及戦略」

「（仮称）価値デザイン経営の普及戦略」

As Is

現状把握※1

（今までの普及活動の振り返り、
現状の課題等）

To Be

各組織、各個人が価値デザイン
経営を実践し、多様な価値創造
メカニズムが生まれる
⇒**価値デザイン社会の実現**

To Do

価値デザイン社会の実現に向け、

- ・価値デザイン経営の普及・実践**エコシステム※2**の構築
- ・エコシステム構築に向けて各関係者が取る**アクションアイテムの整理**

※1 現状把握の一環として、本日は下記説明を実施
（近藤委員）経営デザインシートを取り巻く現在の環境、民間における普及状況について
（金融庁）金融機関への経営デザインシート普及状況、無形資産を含む包括的な担保融資について
（経済産業省）ローカルベンチマークの普及活動、経営デザインシートとの連携について

※2 エコシステムの案を5ページにて紹介

● 今までの普及活動の振り返り(ファクト整理を中心に)

⇒(民)

- ・御協力頂いている金融機関、コンサルティング会社、各士業団体、各商工会議所等の団体・個人の方々による普及、経営デザインシート(KDS)作成支援

⇒(官)※

- ・内閣府知的財産戦略推進事務局:価値デザイン経営の実践に向けた総合調整、経営デザインシートの利活用促進
- ・経済産業省、金融庁等:連携・協力(経営デザインシートの紹介など)

※ 知的財産推進計画2018～2020の経営デザインシート関連施策の担当省庁を想定

● 現状の課題

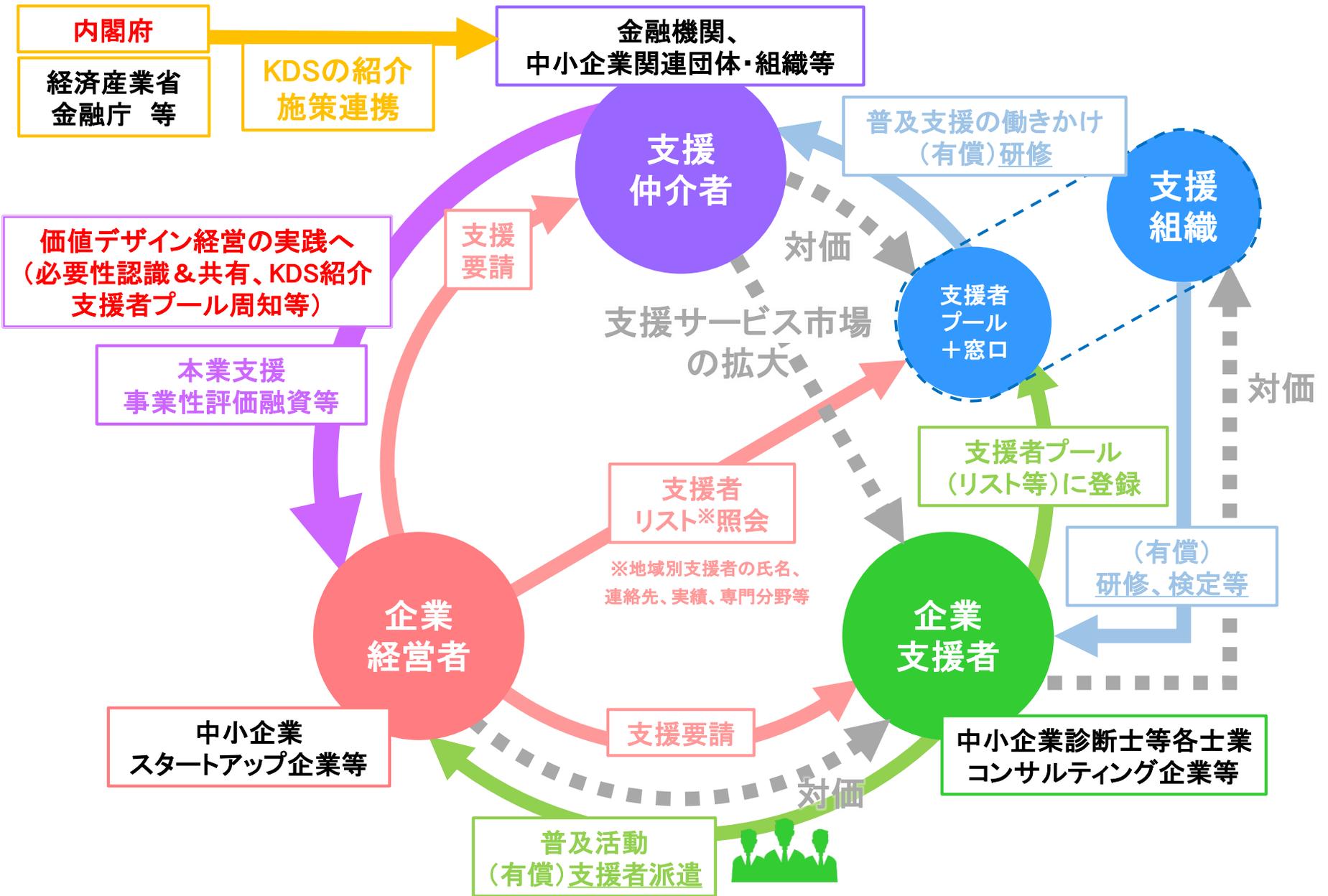
- ・価値デザイン経営、価値デザイン社会をより一層浸透させる必要性
- ・価値デザイン経営のポイントが意図しない内容で紹介され、経営デザインシートが意図しない形で使用されている事例が存在

⇒(今後解決すべき課題の例)

- ・価値デザイン経営を促す強い力学が働く仕組みが不十分
- ・問題意識の高い伝道師(支援者)集団ができ、活発な普及活動により広まりつつあるが、日本経済全体にインパクトをもたらすことが必要。(恒常的に企業との接点を持つビジネスサポート主体を組織的に取り込み、価値デザイン経営への関心を喚起する)
- ・価値デザイン経営の本旨、コンセプトが分かりやすい形で公表することが必要
- ・企業経営者が価値デザイン経営に関心を持った場合に、簡潔に支援者にアクセスできる仕組みが必要
- ・既存ツール(金融機関における事業性評価シート、ローカルベンチマーク等)との棲み分け、具体的活用法が不明

② 普及戦略骨子（案）

～普及実践エコシステム～



○ 支援仲介者（金融機関、中小企業関連団体・組織等）

- ・価値デザイン経営の趣旨を理解し、企業経営者に普及。必要に応じて、支援者プールを紹介。
- ・企業経営者に対する価値デザイン経営の実践につながる **動機付け(力学)の主体**

○ 企業経営者（中小企業、スタートアップ企業等）

- ・支援仲介者からの働きかけにより、価値デザイン経営の必要性を認識し、実践
- ・(必要な場合)支援者プールに問合せ、自社に適した支援者を選定、支援を申し入れ

○ 企業支援者（中小企業診断士等各士業、コンサルティング企業等）

- ・支援組織による研修・検定等で、価値デザイン経営の趣旨・実践手法等への理解の維持・深化
- ・適正な支援者を、支援者プールへ登録。要請に応じて支援者を企業に派遣

○ 支援者プール・支援組織

- ・価値デザイン経営の普及・その実践を支援するためのツール・コンテンツの開発
(〇〇士向け、金融機関向け等、普及の担い手に合わせたツール・コンテンツのカスタマイズなどを想定)
- ・価値デザイン経営の普及・実践を支援する人材を育成し、その量と質を維持・向上
(例えば、研修プログラム、検定制度等)
- ・各関係者とのネットワークの充実化、支援者リスト等の情報提供、簡便に支援者へアクセス出来る仕組みを構築

○ 内閣府（知的財産戦略推進事務局）

- ・(継続)価値デザイン経営の普及実践活動・総合調整、KDSの利活用促進
- ・2020年度中に普及戦略を整備。具体的アクションを牽引

○ 経済産業省、金融庁等の関係省庁

- ・(継続)「価値デザイン経営の普及実践。KDSの利活用促進」への連携・協力

① エコシステム

⇒ 価値デザイン経営の普及・実践が促される仕組みとして適切か
エコシステムは実現可能か
各主体が担う機能は何か。各主体が活動を継続するための動機・収入源は何か

② アクションアイテム

⇒ エコシステム実現・維持の観点から、必要となるアクションアイテムは何か
実現可能で具体化できるものか

③ 「(仮称)価値デザイン経営の普及戦略」の全体像、骨子案

⇒ 現状把握、あるべき姿(エコシステム)、アクションアイテムからなる構成は適切か
追加・盛り込むべき要素はあるか



以上